



# 平成24年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年12月16日

上場会社名 株式会社ジーンズメイト 上場取引所 東  
 コード番号 7448 URL <http://www.jeansmate.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西脇昌司  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 砂田真一 TEL 03-5738-5555  
 四半期報告書提出予定日 平成23年12月28日  
 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成24年2月期第3四半期の業績(平成23年2月21日～平成23年11月20日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年2月期第3四半期	8,294	22.2	240	-	215	-	1,114	-
23年2月期第3四半期	10,666	12.8	1,082	-	1,060	-	2,653	-

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年2月期第3四半期	101 94	-
23年2月期第3四半期	242 76	-

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年2月期第3四半期	9,294	6,426	69.1	588 04
23年2月期	9,597	7,549	78.7	690 77

(参考)自己資本 24年2月期第3四半期 6,426百万円 23年2月期 7,549百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年2月期	-	0 00	-	0 00	0 00
24年2月期	-	0 00	-	-	-
24年2月期(予想)	-	-	-	0 00	0 00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成24年2月期の業績予想(平成23年2月21日～平成24年2月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,840	17.1	220	-	200	-	1,100	-	100 65

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は【添付資料】P.4「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 有  
以外の変更 無

（注）「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年2月期3Q	12,651,466株	23年2月期	12,651,466株
期末自己株式数	24年2月期3Q	1,722,806株	23年2月期	1,722,394株
期中平均株式数（四半期累計）	24年2月期3Q	10,928,777株	23年2月期3Q	10,929,780株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により予想数値と異なる場合があります。

## 添付資料の目次

1 . 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1)経営成績に関する定性的情報	2
(2)財政状態に関する定性的情報	3
(3)業績予想に関する定性的情報	4
2 . その他の情報	4
(1)簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2)会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(3)継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
3 . 四半期財務諸表	6
(1)四半期貸借対照表	6
(2)四半期損益計算書	7
(第3四半期累計期間)	7
(第3四半期会計期間)	8
(3)四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4)継続企業の前提に関する注記	10
(5)株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期会計期間(平成23年8月21日から平成23年11月20日まで)におけるわが国経済は、東日本大震災による影響から着実な回復傾向にあるものの、欧州の金融不安などによる世界景気の減速懸念や円高の長期化などにより依然として先行き不透明な状況でありました。

このような経営環境のもと、当社では収益構造の改善を図るべく、既存業態の建て直しと新たなビジネスモデルの構築・拡充に引き続き取り組んでまいりました。

商品面におきましては、ボトムスでは機能素材のアイテムが健闘し、ワークパンツについては前年を上回る水準で推移することができましたが、引き続きデニム5ポケット全般が苦戦いたしました。トップスでは、長袖Tシャツなどの秋物商材が不安定な動きとなったことに加え、防寒アウターの立ち上がり鈍く、マフラーや手袋などの防寒アイテムとともに苦戦したことにより、ボトムス部門売上高7億48百万円(前年同四半期比12.3%減)、トップス部門売上高12億41百万円(前年同四半期比17.9%減)、小物部門売上高5億36百万円(前年同四半期比21.8%減)と各部門ともに厳しい結果となりました。

販売面といたしましては、これまで期間限定で「ジーンズデー」と称してボトムスを購入されたお客様に特別ポイントをプレゼントしておりましたが、期間を限定せずいつでも特別ポイントがプレゼントされる「Day-by-Day point service」に変更してボトムス売上の底上げを図るとともに、期間ごとに商品を絞った販売キャンペーンを継続してまいりました。

出退店につきましては、出店が12店舗、退店が3店舗となり、当第3四半期会計期間末の総店舗数は119店舗となりました(「JEANS MATE」89店舗、「ワケあり本舗」14店舗、「Happy Door」5店舗、「ゼログラ」2店舗、「PLAINN(プレイン)」3店舗、「blue bell market(ブルーベルマーケット)」3店舗、「coton terrasse(コットンテラス)」1店舗、「アキバあそび館」2店舗)。なお、24時間営業店舗は17店舗(すべて「JEANS MATE」)となりました。

以上の結果、売上高25億25百万円(前年同四半期比17.2%減)、営業損失2億15百万円(前年同四半期は営業損失3億34百万円)、経常損失2億6百万円(前年同四半期は経常損失3億25百万円)、四半期純損失は4億17百万円(前年同四半期は四半期純損失4億17百万円)となりました。

当第3四半期累計期間の売上高は82億94百万円(前年同四半期比22.2%減)、営業損失2億40百万円(前年同四半期は営業損失10億82百万円)、経常損失2億15百万円(前年同四半期は経常損失10億60百万円)となりました。また、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億60百万円、減損損失4億40百万円を計上したことなどにより、四半期純損失は11億14百万円(前年同四半期は四半期純損失26億53百万円)となりました。前年同四半期に比べ、客数の減少などにより大幅な減収となりましたが、商品政策の見直しや固定費の圧縮などにより、利益面では改善させることができました。

## (2)財政状態に関する定性的情報

### (資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ3億2百万円減少し、92億94百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ7億10百万円減少し、63億79百万円となりました。これは主に商品が2億48百万円増加しましたが、現金及び預金が10億97百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ4億8百万円増加し、29億15百万円となりました。これは主に敷金及び保証金が1億84百万円減少しましたが、投資有価証券が5億円増加したことによるものであります。

### (負債)

当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ8億20百万円増加し、28億68百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ2億98百万円増加し、20億9百万円となりました。これは主に支払信託が1億5百万円減少、店舗閉鎖損失引当金が1億3百万円減少しましたが、買掛金が3億78百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ5億22百万円増加し、8億58百万円となりました。これは主に資産除去債務を5億16百万円計上したことによるものであります。

### (純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ11億23百万円減少し、64億26百万円となりました。これは主に四半期純損失を11億14百万円計上したことによるものであります。

### (キャッシュ・フローの状況の分析)

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前四半期会計期間末に比べ10億8百万円減少し、12億13百万円となりました。

当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、1億81百万円(前年同四半期は4億18百万円の支出)となりました。これは主に仕入債務の増加が4億87百万円、減損損失の計上が1億58百万円となりましたが、たな卸資産の増加が4億73百万円、税引前四半期純損失の計上が4億5百万円となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、8億27百万円(前年同四半期は58百万円の獲得)となりました。これは主に有価証券の取得及び償還に伴う純支出が8億4百万円となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、中間配当を行わなかったことにより0百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。

(3)業績予想に関する定性的情報

本資料に記載されている業績予想につきましては、平成23年9月9日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」の記載から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. その他の情報

(1)簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

棚卸資産の評価方法

当第3四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(2)会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計基準等の改正に伴う変更)

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期累計期間の営業損失、経常損失がそれぞれ9百万円増加し、税引前四半期純損失は3億70百万円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は5億58百万円であります。

### (3)継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、前事業年度において営業損失11億22百万円、当期純損失29億61百万円、営業キャッシュ・フロー7億1百万円のマイナスとなり、当第3四半期累計期間においても営業損失2億40百万円、四半期純損失11億14百万円、営業キャッシュ・フロー4億47百万円のマイナスとなりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善すべく、販売力強化と経費削減による収益力の回復に取り組んでまいります。

#### 品揃えの拡充と売場の再構築

従来より取扱っておりますカジュアル衣料につきましては、価格訴求中心のものから付加価値の高い商品への転換を進めております。また、前事業年度に譲り受けたバラエティショップ「Happy Door」との連携を強化し取扱商品の幅を広げていくことで、量販型の売場からコーディネートをはじめとしたライフスタイルを提案する型へ売場を変更し、幅広いお客様からの支持を得られるよう努めてまいります。

#### ワケあり本舗業態の確立

前事業年度よりロープライス(アウトレット)業態として営業を始めた「ワケあり本舗」は、一定の集客効果が確認できたことから、商品構成等の検証を行ないながら、新たな収益モデルとして確立するよう引き続き努めてまいります。当第3四半期会計期間には6店舗の新規出店を行い(退店1店舗)、店舗網の拡大に着手した結果、当第3四半期会計期間末で14店舗となりました。

#### 新業態店舗の開発

多様化しているお客様のニーズに応えるべく、年齢や性別などのターゲットを明確に絞り込んだ新たな業態を開発してまいります。これまでは、マスマーケットに向けた「JEANS MATE」、ロープライス型の「ワケあり本舗」、女性の生活を楽しくする「Happy Door」、メンズ業態の「PLAINN(プレーン)」及びレディース業態の「blue bell market(ブルーベルマーケット)」などを展開してきましたが、新たな業態の開発によりお客様のニーズに細かく対応してまいります。当第3四半期会計期間には、雑貨とアパレルを融合したショッピングセンター向け業態の「coton terrasse(コットンテラス)」を立ち上げるとともに一時休止していた「アキバあそび館」を再開し、それらの運用及び販売動向等の各種検証を開始いたしました。

#### 不採算店の撤退促進

前事業年度では合計16店舗を閉鎖いたしました。引き続き店舗ごとの業績について検証を行ない、将来性の乏しい店舗については撤退を促進し、経営資源を集中させてまいります。当第3四半期会計期間には3店舗を閉鎖し、当第3四半期累計期間では合計9店舗を閉鎖いたしました。

#### 固定費のさらなる圧縮

前事業年度には早期退職優遇制度(109名退職)や営業時間の見直し(24時間営業の短縮32店舗)などを行ない、当第3四半期会計期間には店舗への商品配送頻度の見直しに着手いたしました。今後につきましても、引き続き物流をはじめ各種経費の削減に努めてまいります。

上記を中心とした施策を講じながら収益力の回復に努めてまいりますとともに、今後の運転資金は十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年11月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成23年2月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,144,179	2,241,971
売掛金	191,745	129,482
有価証券	2,295,356	2,197,080
商品	2,544,043	2,295,823
その他	204,182	225,877
流動資産合計	6,379,507	7,090,236
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	547,471	47,374
敷金及び保証金	2,259,025	2,443,959
長期未収入金	301,265	300,065
その他	106,611	15,757
貸倒引当金	299,265	300,065
投資その他の資産合計	2,915,108	2,507,091
固定資産合計	2,915,108	2,507,091
資産合計	9,294,616	9,597,327
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払信託	252,873	358,405
買掛金	794,854	416,182
賞与引当金	14,946	60,659
ポイント引当金	160,257	195,137
店舗閉鎖損失引当金	39,398	142,972
その他	747,618	538,292
流動負債合計	2,009,949	1,711,651
固定負債		
資産除去債務	516,355	-
長期未払金	335,877	335,877
繰延税金負債	-	292
その他	5,940	-
固定負債合計	858,172	336,169
負債合計	2,868,121	2,047,821
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,015,812	2,015,812
資本剰余金	2,125,434	2,125,434
利益剰余金	3,552,990	4,667,068
自己株式	1,259,340	1,259,234
株主資本合計	6,434,897	7,549,080
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,363	426
繰延ヘッジ損益	39	-
評価・換算差額等合計	8,402	426
純資産合計	6,426,494	7,549,506
負債純資産合計	9,294,616	9,597,327

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年2月21日 至平成22年11月20日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年2月21日 至平成23年11月20日)
売上高	10,666,492	8,294,087
売上原価	5,949,372	4,132,542
売上総利益	4,717,120	4,161,544
販売費及び一般管理費	5,799,880	4,402,071
営業損失( )	1,082,760	240,526
営業外収益		
有価証券利息	24,358	16,915
受取賃貸料	-	7,656
その他	5,851	10,305
営業外収益合計	30,210	34,877
営業外費用		
投資事業組合運用損	7,341	1,514
賃貸費用	-	7,656
その他	379	732
営業外費用合計	7,721	9,902
経常損失( )	1,060,271	215,552
特別利益		
貸倒引当金戻入額	42,334	-
特別利益合計	42,334	-
特別損失		
減損損失	1,309,773	440,053
店舗閉鎖損失	37,262	24,781
店舗閉鎖損失引当金繰入額	70,550	39,398
特別退職金	183,603	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	360,519
特別損失合計	1,601,189	864,753
税引前四半期純損失( )	2,619,126	1,080,305
住民税	34,149	33,772
四半期純損失( )	2,653,276	1,114,077

(第3四半期会計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成22年8月21日 至平成22年11月20日)	当第3四半期会計期間 (自平成23年8月21日 至平成23年11月20日)
売上高	3,049,740	2,525,860
売上原価	1,566,166	1,241,984
売上総利益	1,483,573	1,283,876
販売費及び一般管理費	1,817,968	1,499,107
営業損失( )	334,395	215,231
営業外収益		
有価証券利息	7,406	8,188
受取賃貸料	-	2,970
その他	1,796	1,433
営業外収益合計	9,202	12,592
営業外費用		
投資事業組合運用損	499	400
賃貸費用	-	2,970
その他	48	140
営業外費用合計	548	3,510
経常損失( )	325,740	206,149
特別利益		
貸倒引当金戻入額	42,334	-
特別利益合計	42,334	-
特別損失		
減損損失	32,897	158,951
店舗閉鎖損失	37,262	1,499
店舗閉鎖損失引当金繰入額	51,090	39,398
特別退職金	969	-
特別損失合計	122,220	199,849
税引前四半期純損失( )	405,626	405,999
住民税	11,468	11,741
四半期純損失( )	417,094	417,741

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年2月21日 至平成22年11月20日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年2月21日 至平成23年11月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失( )	2,619,126	1,080,305
減価償却費	57,953	20,531
減損損失	1,309,773	440,053
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	360,519
貸倒引当金の増減額( は減少)	42,334	-
賞与引当金の増減額( は減少)	71,120	45,713
ポイント引当金の増減額( は減少)	14,744	34,880
株主優待引当金の増減額( は減少)	22,015	-
店舗閉鎖損失引当金の増減額( は減少)	2,908	103,574
受取利息及び受取配当金	24,951	17,330
投資事業組合運用損益( は益)	7,341	1,514
売上債権の増減額( は増加)	81,631	62,262
たな卸資産の増減額( は増加)	1,655	248,219
仕入債務の増減額( は減少)	393,155	273,140
その他	396,146	75,688
小計	716,118	420,838
利息及び配当金の受取額	26,169	13,154
法人税等の支払額	30,182	39,882
営業活動によるキャッシュ・フロー	720,130	447,566
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	728,661	3,351,882
有価証券の償還による収入	1,252,605	2,259,068
有形固定資産の取得による支出	131,341	95,117
無形固定資産の取得による支出	27,337	1,636
投資有価証券の取得による支出	-	511,190
投資有価証券の売却による収入	304,560	-
投資有価証券の償還による収入	-	1,000,000
敷金及び保証金の差入による支出	83,136	127,215
敷金及び保証金の回収による収入	190,352	279,522
事業譲受による支出	54,735	-
その他	36,930	99,977
投資活動によるキャッシュ・フロー	685,375	648,429
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	533	105
配当金の支払額	55,370	1,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	55,904	1,613
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	90,660	1,097,609
現金及び現金同等物の期首残高	2,119,266	2,311,021
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,028,606	1,213,412

(4)継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5)株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。